

超高齢化社会を迎え、自分か介護を受けることを想定して、あらかじめアンダーヘアを処理する「介護脱毛」が注目を集めている。「そこまでする必要があるのか」という声もあるが、美容脱毛が普及し、これを経験した中年世代が介護脱毛に踏み切る例が目立つようだ。周辺を探ると、介護を巡る複雑な思いも浮かび上がる。

(伊藤空那)

介護脱毛という言葉が普及させたのは医療脱毛専門院チエーン大手「リゼクリニック」(東京)。昨年、2010年から10年間でアンダーヘアの脱毛を契約した「40歳以上の女性患者」の数が75倍になったと発表した(来院数は非開示)。増加傾向は、17年には既に見られたという。

「40代以上は、潜在的な脱毛欲があった世代」とみるのは、産科・婦人科「ひなたクリニック」(札幌市中央区)の三橋裕一院長(52)。この世代の患者を念頭に、昨年からホームペーシに介護脱毛を掲げた。昔より費用が下がり、「介護への備え」が脱毛の一つのきっかけになっている。

ひなたクリニックに通う札幌在住の女性患者(51)は、体毛の脱毛経験はあったが、父親の介護がきっかけで介護脱毛に踏み切った。下の世話は母親が担ったが、苦勞する姿をそばで

排せつ介助時間短縮 / 臭い軽減

老後に備える? 「介護脱毛」

中年女性が注目 「迷惑かけたくない」

は極力迷惑をかけたくな「と考えたという。「そろそろ準備しないと、思います。若い記者さんには分からないかもしれませんが」

白髪になる前に

脱毛には、脱毛サロンなどが光脱毛機で行う「美容脱毛」と、医療機関がレーザー脱毛機で行う「医療脱毛」がある。ともにメラニン色素に反応するため、白髪になる前に施術する。医療脱毛は毛根を焼いて

再生しないようにするもので、医師や指導を受けた看護師が行う。照射出力が高い分、痛みもあり、麻酔を使用する。「医療機関なので、やけどなどが一つのトラブルも治療できる」(三橋院長)。毛周期に合わせて2カ月ごとに施術し、5回前後で産毛程度になるという。費用は同クリニックの場合、5回で約17万円。

介護脱毛について、せいとく介護ごども福祉専門学校(札幌市中央区)の教員、長屋敦志さん(46)は「介護者の負担よりも、介護される人にメリットがあるかどうか、という視点で考えることが大事」と話す。

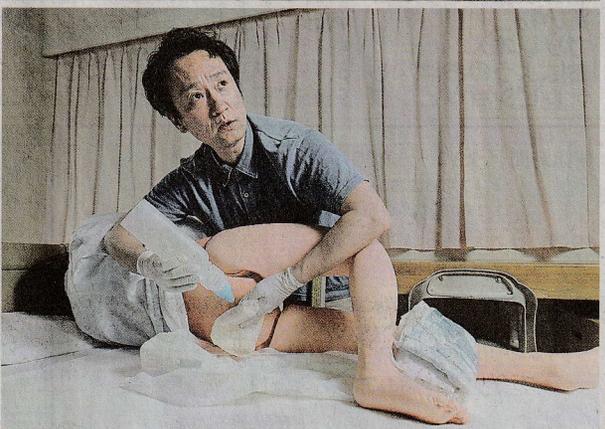
自身は介護福祉士としての経験から「(介護に備えて)そこまでする必要はないのでは」と感じている。個人差はあるが、一般に、脱毛しなくても加齢で自然に毛量は減るからだ。

一方、無毛状態なら1日6~8回の排せつ介助の時間が短くなるのは確かだ。通常、紙おむつの交換の所要時間は約8分、紙おむつ

と併用するパッドの交換なら約3分だが「排せつ物の拭き取りが容易になり、時間が短縮されれば、介護される人の心身の負担を減らせる可能性がある。臭いも軽減される」という。

福祉業界は賛否

長屋さんの周囲の福祉関係者の間でも、賛否が分かれる。「プロとしては、まずは清潔に保てるようにトイレ誘導や下剤の見直しなどを考えたい」「自分なら脱毛した状態を見られるのは嫌だ」と抵抗感を覚える人がいる一方、「老老介護や家族介護の場で、お互いのことを考えて選択するならアリ」「仕事を通じ、今後を考えて自分も脱毛した」と理解を示す人もいる。



①「産婦人科で脱毛を手掛けるのは珍しい。内診台を使うので照射漏れがない」と話す三橋裕一院長(伊丹恒撮影)
②人形を使い、排せつ介助の流れを説明する長屋敦志さん(中川月記撮影)

注意すべき点もある。道立消費生活センターによると、一般に脱毛を巡るトラブルは少なくなく、20年度末までの5年間で156件の相談があった。「体験だけのつもりが勧誘を受け、高額なコースを契約してしまった」などが典型だ。担当者は「契約時は書面をしっかり確認し、困り事が起きたら近くのセンターに相